

報告タイトル (* 日本語と英語両方ご記入ください)

歴史と交通を軸とした地域連携の形成と変容
— 粵港澳大湾区における三核地域の比較分析 —

“Historical and Transport-Driven Regional Connectivity: A Comparative Analysis of Three Core Regions in the GBA”

氏名 (所属)

阮玉玲 (山梨学院大学)

RUAN Yuling (Yamanashi Gakuin University)

要旨 (800 字程度)

本研究は、粵港澳大湾区における広仏肇、深莞恵港、珠中江マカオの三地域を対象とし、歴史的行政区画および地縁構造の形成過程に着目し、それぞれの空間統合の形成メカニズムを比較分析したものである。従来の都市圏一体化研究が制度設計や産業政策に重点を置いてきたのに対し、本研究は歴史的条件と交通ネットワークの関係性を重視し、研究対象地域の都市間連携を体系的に整理することを目的とする。

研究結論は以下 3 点に整理した。第一に広仏肇地域では、伝統的な官道および広州府を中心とする行政体系のもとで、歴史的に高い地域的一体性が形成されてきた。この歴史的連続性を基盤として、現代の鉄道網は官道・水運ルートを継承する形で整備され、広州を中心とする放射型交通ネットワークが都市間結合を強化している。

深莞恵港地域では、深圳と東莞がかつて同一行政単位に属しながらも、その後の行政再編によって制度的分断を経験した。また恵州は独自の文化圏を形成してきた。このような背景のもと、同地域では深圳・香港を中心とした多軸的交通ネットワークが展開され、鉄道・高速道路が東西南北方向に交差することで広域的連結性を実現している。これにより制度的枠組みに支えられた都市圏統合が進展している。

珠中江マカオ地域では、珠海・中山が旧香山県として広州府の行政体系および広府文化圏に属していた一方、江門は新会県系統として異なる発展経路を辿ってきた。またマカオはポルトガル統治下で独自の制度体系を形成しつつ、珠海との密接な経済的・人的連関を維持してきた。当該地域では高速道路と大型橋梁を基盤とする複合的交通連携が形成され、地理的制約を超えた広域接続性が確保されている。

以上より、粵港澳大湾区における空間統合は、単なる交通インフラ整備や制度設計の結果ではなく、歴史的行政区画、地縁構造、文化的背景といった長期的条件に規定された多元的プロセスであることが明らかとなった。現代の都市間交通整備や政策的統合は、こうした歴史的蓄積の上に重層的に作用することで、地域間連携と空間統合の多様な形態を生み出している。